

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名	所在地																																
北海道芸術デザイン専門学校		昭和51年4月1日	根上 和也	〒 001-0024 (住所) 北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777																																
設置者名		設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人 美専学園		昭和62年12月4日	増田 涼平	〒 001-0024 (住所) 北海道札幌市北区北24条西8丁目1-12 (電話) 011-756-0777																																
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
文化・教養	専門課程	産業デザイン学科 (グラフィックデザイン専攻)		平成 7(1995)年度	-	平成26(2014)年度																														
学科の目的	産業デザイン学科(グラフィックデザイン専攻)の各分野に関するプロ養成に必要な、「基礎から実践」までを教育することを目的とし、次の事項に重点的に取り組む。 ・各分野のプロになるための技術や知識を学ばせ就職させる。 ・いかに学生・保護者・就職先企業等のニーズに応えるか、各分野における諸課題を主体的・創造的に研修し、実務的な職業教育を施す。																																			
学科の特徴(主な教育内容、取得可能な資格等)	【資格・検定】ビジネス能力検定・ジョブパス、ADEC色彩検定、Illustratorクリエイター能力認定試験、Photoshopクリエイター能力認定試験、Webクリエイター能力認定試験 【学修成果】日本タイポグラフィ年鑑2025学生部門 入選、第56回毎日DAS 学生デザイン賞 大学生の部 “金の卵賞” グラフィック部門 入選																																			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																												
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,400 単位時間		300 単位時間	2,100 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	0 単位時間																												
		-		-	-	-	-	-																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率																																
320 人の内	84 人	0 人	0 %	4 %																																
就職等の状況	<table border="1"> <tr><td>■ 卒業者数 (C)</td><td>39</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 就職希望者数 (D)</td><td>32</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 就職者数 (E)</td><td>31</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 地元就職者数 (F)</td><td>29</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ 就職率 (E/D)</td><td>97</td><td>%</td></tr> <tr><td>■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)</td><td>94</td><td>%</td></tr> <tr><td>■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)</td><td>97</td><td>%</td></tr> <tr><td>■ 進学者数</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■ その他</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和 6 年度卒業者に関する令和7年5月1日時点の情報)</p> <p>■ 主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 広告、Web、印刷、インハウス 等</p>								■ 卒業者数 (C)	39	人	■ 就職希望者数 (D)	32	人	■ 就職者数 (E)	31	人	■ 地元就職者数 (F)	29	人	■ 就職率 (E/D)	97	%	■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	94	%	■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	97	%	■ 進学者数	0	人	■ その他			
■ 卒業者数 (C)	39	人																																		
■ 就職希望者数 (D)	32	人																																		
■ 就職者数 (E)	31	人																																		
■ 地元就職者数 (F)	29	人																																		
■ 就職率 (E/D)	97	%																																		
■ 就職者に占める地元就職者の割合 (F/E)	94	%																																		
■ 卒業者に占める就職者の割合 (E/C)	97	%																																		
■ 進学者数	0	人																																		
■ その他																																				
第三者による学校評価	■ 民間の評価機関等から第三者評価: 無																																			
当該学科のホームページURL	https://bisen-g.ac.jp/course/commercial/graphic/																																			
企業等と連携した実習等の実施状況 (A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,400 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,400 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>300 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>-</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>-</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>-</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>-</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>-</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>-</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>-</td></tr> </table>								総授業時数	2,400 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	300 単位時間	うち必修授業時数	2,400 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	300 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	-	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	-	うち企業等と連携した演習の授業時数	-	うち必修授業時数	-	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	-	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	-	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	-
総授業時数	2,400 単位時間																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	300 単位時間																																			
うち必修授業時数	2,400 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位時間																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	300 単位時間																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																			
総授業時数	-																																			
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	-																																			
うち企業等と連携した演習の授業時数	-																																			
うち必修授業時数	-																																			
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	-																																			
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	-																																			
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	-																																			
教員の属性 (専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員 (分野におけるおおむね 5 年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定) の数</p> <p>3 人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人	計	3 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1 人																																			
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																			
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																			
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	1 人																																			
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1 人																																			
計	3 人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」を達成するために、指導内容や各種特別活動等を総合的に組織する一連のPDCAサイクルにおいて、教育課程編成委員会でその教育効果を検証し、企業等委員からの意見・助言を取り入れ、開設科目編成や授業内容の改善等を図っていくものとする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

年2回開催される本委員会は、委嘱委員から経営者等としての視点による助言を受け、即戦力となる人材育成のために、学生がインターンシップや職場体験、現場見学等を経験できる機会を創出する等、社会人としての基礎力および実務スキル向上につながる授業内容や指導方法の改善に取り組むための、意見交換および教育効果検証の場として位置付ける。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
佐野 公康	株式会社プリプレス・センター 顧問	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	③
佐藤 正人	北海道イラストレーターズクラブα 名誉会長	同上	①
堀川 敦史	(株)インフィニットループ 執行役員	同上	③
大内 利章	(株)自然農園 代表取締役社長	同上	③
伊藤 千織	一般社団法人 北海道デザイン協議会 会長	同上	①
薄木 健友	(株)花佳 代表取締役	同上	③
赤坂 真一郎	(株)アカサカシンイチロウアトリエ 代表取締役	同上	③
鈴木 理	(株)鈴木理アトリエ一級建築士事務所 代表取締役	同上	③
根上 和也	北海道芸術デザイン専門学校 校長(委員長)	同上	—
高橋 美絵	同 教務部長・マルチメディアデザイン学科長	同上	—
飯塚 哉子	同 学務部長・建築デザイン学科長	同上	—
高畑 文一	同 産業デザイン学科長	同上	—
桂 充子	同 環境デザイン学科長	同上	—
稲葉 未紗	就職課主任	同上	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

開催頻度:年2回、開催時期:8月および2月

(開催日時(実績))

第1回 令和6年8月29日 16:00～18:00

第2回 令和7年2月10日 15:00～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

・第1回教育課程編成委員会で出された意見や助言を踏まえ、改善点があれば可能なものは後期の授業から、その他については次年度の教育課程編成に際して反映させ、第2回教育課程編成委員会で新年度教育課程案として提案している。

・企業側は、より幅広いスキルやデザイン思考を持つ人材を求めているとの助言により、UIデザインやデザインスキル(レイアウト以外にもプランニングなど)の授業内容を強化。企業が求める多様化と、担任授業ならびに就職課と連携し学生のキャリアプランニング支援のを強化した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校の教育目標「各専攻における専門教育および職業教育の確立」達成のため、各専攻関連分野の企業および業界団体と連携し、実践的な職業教育の実施に必要なカリキュラムの作成、講義および研修の実施、各種教材の作成等において、緊密な協力体制を構築・維持するものとする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

- ・職業教育協定書に基づき、各専攻関連分野の企業および業界団体から、各専門分野の指導講師として人材の派遣を受ける。
- ・担当教科目の指導計画について事前に協議し、各教科目のねらいに沿って授業内容や実施方法、評価の観点等についてまとめた指導計画書(シラバス)を作成し、教務部へ提出する。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
応用技術演習 (印刷・レイアウト演習)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	中綴小冊子の企画から実制作を通して、Adobe IllustratorとPhotoshopを使用したデジタル入稿から校正・製本までのプロセスの理解と、必要な情報を視覚的に分かりやすくレイアウトする紙面構成のトレーニングを目的として演習を行う。さらに、実務とワークフローの理解のために企業訪問・工場見学を実施し、製造工程の理解を深めさせる。	白馬堂印刷株式会社
専門技術演習 I (アートディレクション)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	解説と研究でアートディレクション業務を学び、実習課題の制作を通して、アートディレクションの表層を体験し、プロジェクトを客観視しながらディレクションの重要性を経験し学ぶ。アートディレクションの基礎知識の習得をしながら表現力を育て、型にはまらないアイデアを基軸にしたデザイン思考を伴うアートディレクション能力を培う。	公益社団法人 日本グラフィック デザイン協会 北海道道央地区
基礎技術演習 (グラフィック基礎Ⅱ)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	造形要素の特性を把握し、プロポーションやコンポジション、シンメトリーなど、造形要素がもたらす造形秩序と配色の調和について、演習課題制作を通じて習得していくとともに、制作物の目的やターゲット層を意識しながら、クライアントワークに挑戦する。また、公的な広報キャンペーンのためのポスターデザイン制作を通して、伝えようとする内容について理解、把握したうえで、誰に向けてのメッセージなのか、どのような表現が効果的なのか、多様な角度・視点から考察し、表現方法の可能性を追究する。	有限会社 ホライズン
総合技術演習 (DTP演習Ⅲ)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	制作演習を通じてAdobe InDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。企画力の向上も図り、現場に即した制作のワークフローを学びながら、InDesignによる入稿方法を学ぶ。また、エディトリアルデザインにおける企画立案・取材・協働作業・校正の技術を修得しながら、タイトルやビジュアル、写真の扱いなどページを意識したデザインの完成度を高め課題制作を行う。	札幌アート ディレクターズクラブ
総合技術演習 (広告デザイン演習Ⅱ)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	コピーライティング・タイポグラフィ・プランニング等、広告制作において、幅広い視野をもち、戦略的かつ効果的な広告企画を展開できる実践方法を学ぶ。演習課題制作を通じて、ビジュアル撮影やコピーワークも含めた、総合的な広告制作のノウハウとテクニックを身に付け、一つの着地点に対して多面的なアプローチができる習慣を身に付けさせる。	有限会社 クォーターパック クリエイティブ

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 (教員の研修等の基本方針) 本校教職員研修規程に基づき、研修は、教職員が現在就いている職に係わる職務の遂行に必要な知識、技能、資質等の向上を図ることを目的とし、そのため教職員の資質に応じた研修計画を策定し、校内外で催される必要な研修を受ける機会を学園として認め、経費を負担することとする。 ・教職員は、業務に支障のない限り、理事長の承認を受け校外の産業現場等、勤務場所を離れて研修を行うことができるものとする。 ・各専攻関連分野の業界団体主催による各種技能研修や、ICT機器・アプリケーションソフト関連セミナー等の受講機会を確保し、最新の実務知識・技術・技能の計画的修得および向上に努める。		
(2) 研修等の実績		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: JAGDA北海道ポスター展 デザイントークショー	連携企業等: JAGDA北海道地域	対象: デザイナー、教員、学生
期間: 令和6年8月23日		
内容: ポスターのコンセプトを参加デザイナーから聞こう		
研修名: ZINEつくろう! SCHOOOL	連携企業等: SHIMAUMA DESIGN	対象: 教員、学生、一般
期間: 令和7年5月22日		
内容: ZINE作りに関する、講義とレクチャー		
研修名: 札幌国際芸術祭2027キックオフカンファレンス	連携企業等: SIAF	対象: 教員、学生、一般
期間: 令和7年6月20日		
内容: ここから始動! 札幌国際芸術祭2027		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: モリサワ認定校オンラインセミナー	連携企業等: 株式会社モリサワ	対象: 教員・講師・学生
期間: 令和7年1月23日		
内容: モリサワの講師による「文字・組版セミナー」		
研修名: Google Cloud 最新技術活用オンラインセミナー	連携企業等: グーグル・クラウド・ジャパン合同会社	対象: 教員
期間: 令和7年6月18日		
内容: GPU、ストレージ、AI で研究・教育を加速		
(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名: JAGDA北海道ポスター展 デザイントークショー	連携企業等: JAGDA北海道地域	対象: デザイナー、教員、学生
期間: 令和7年8月19日		
内容: ポスターのコンセプトを参加デザイナーから聞こう		
研修名: 札幌ADCクリエイターズミーティング 2025	連携企業等: 札幌アートディレクターズクラブ	対象: デザイナー、教員、学生
期間: 令和7年8月22日		
内容: クリエイターとの情報交換ならびにトークイベント		
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名: 学内夏季教職員研修会	連携企業等: 株式会社dott	対象: 教職員
期間: 令和7年7月24日		
内容: クリエイティブ分野におけるAIの現状と利活用について		
研修名: 令和7年度第1回「職業実践専門課程」に係る研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校 教員能力認定委員会	対象: 教員
期間: 令和7年8月1日		
内容: 変化する高校生の理解と専門学校教育の展開		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己評価と学校関係者評価を実施することで、学校の現状と課題を的確かつ具体的に把握して学校運営の改善、強化を目指すものである。また、同時に関係する企業等との信頼関係を深めることを基本方針としている。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標・人材育成像	理念・目的・育成人材像など学科の特性が明確になっているか
	各学科の教育目標・育成人材像は業界のニーズに向けて方向づけられているか
(2)学校運営	目標等に沿った学科運営方針が明確になっているか
	教育活動に関する情報公開が適切になされているか
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針等が示されているか
	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
	資格取得の指導体制はカリキュラムの中で体系的に位置づけられているか
(4)学修成果	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる指導体制を確保しているか
	就職率の向上が図られているか
(5)学生支援	退学率の低減が図られているか
	進路・就職に関する支援体制は整備されているか
(6)教育環境	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか
	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか
(7)学生の受入れ募集	防災に対する体制は整備されているか
	学生募集活動は適正に行われているか
(8)財務	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
(9)法令等の遵守	財務について会計監査が適正に行われているか
	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
(10)社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11)国際交流	留学生の受入れ・派遣について戦略を持って行っているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

昨年度は4名中3名の委員を、今年度は残る1名を入れ替え、新たな視点・それぞれの立ち位置から、本校が行った学校評価(自己評価)結果及び今後の改善に向けての方策等について意見をいただいた。今後も、歴史と伝統のある道内有数の専門学校として、不易と流行を踏まえながら、時代や業界が求める人材の育成のため教育課程や学生指導について改善を図り、また職業実践専門課程校としての責務を果たすべく、連携する企業との情報共有の充実や教育資源の積極的な活用に努めていく。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年4月1日現在

名前	所属	任期	種別
孫田 敏	(有)アークス 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業関係者
松田 香織	宮の沢明日佳病院 看護部長	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	企業関係者
篠宮 利恵子	デザイナー	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	地域有識者
金井 正治	陶芸工房 アトリエ陶 代表取締役	令和7年4月1日～令和8年3月31日(1年)	卒業生・企業関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校) <https://www.iyaku.ac.jp> (北海道医薬専門学校)

公表時期: 令和7年6月中旬

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

学校の状況(課題や教育活動の取組)を広く理解してもらい、さらに企業等との信頼関係を深める。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	経営方針、学校の特色、新型コロナウイルス感染症対策
(2) 各学科等の教育	カリキュラム、収容定員、学修成果、資格取得等の実績、卒業生の進路
(3) 教職員	各教員の担当科目、教員の専門に関する情報
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職支援等への取組状況、実習等の取組情報
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況
(6) 学生の生活支援	学生支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	学生納付金の取り扱い、活用できる経済的支援措置の内容等
(8) 学校の財務	事業報告書、収支計算書
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	留学生の受け入れ・派遣状況
(11) その他	学則

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.bisen-g.ac.jp> (北海道芸術デザイン専門学校)

公表時期: 令和7年6月中旬

授業科目等の概要

(文化教養分野専門課程 産業デザイン学科 (グラフィックデザイン専攻)) 令和7年度																	
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企 業 等 の 連 携	
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
1	○			デザイン概論	社会の中でグラフィックデザインがどのような役割を担っているのか、各種事例研究を通じて理解するとともに、アートとデザインの違い、広告制作をはじめとした何らかの情報伝達を行う際に、クリエイターとして留意すべき点等について学ぶ。	1 前期	30	1	○	△		○		○			
2	○			基礎造形Ⅰ	前半は検定試験公式テキストを使用し色彩理論の基礎を学ぶ。後半は基礎的な平面構成課題を通して構成力・イメージの抽象表現力・実用的な色彩感覚等を養う。	1 前期	30	1	△	○		○				○	
3	○			基礎造形Ⅱ	平面から立体へ展開しながら、紙という材料の基本的な加工方法や、その特性、紙を使った造形の可能性を学ぶ。素材や資料の研究、アイデアを形にするための積極的な実行力や企画力、的確な計画性などの重要性を理解する。	1 後期	30	1	△	○		○				○	
4	○			コンセプトメイキング	テクニックを習得する前に身に付けておくべきデザインの本質的な価値や機能を学び、クリエイティビティの幅を広げるための多角的な視点を育てる。	1 前期	60	2		○		○				○	
5	○			デッサン	最も重要な基本的技術であるデッサン力を学ぶ。繰り返しデッサンを描くことで必要なさまざまな技術、特にグラフィックデザイナーに必要な「観察力」を養う。決められた時間でモチーフ、モデルを観察して素描するクロッキーを通じて、物事を観察し、理解し、言語化できることを目指す。	1 前期	60	2		○		○				○	
6	○			グラフィック基礎Ⅰ	各種トレーニング課題を行いながら、様々なデザイン用具の基本的な使い方・デザインの基礎知識を習得し、デザインの魅力や表現する楽しさを体験するとともに、文字情報の扱い方のスキルを身に付ける。	1 前期	60	2		○		○				○	
7	○			グラフィック基礎Ⅱ	造形要素の特性を把握し、プロポーションやコンポジション、シンメトリー等造形要素がもたらす秩序と配色調和について学ぶ。後半では制作物の目的やターゲット層を意識しながら、前半の学びを応用した課題制作に取り組む。	1 前期	60	2		○		○				○	○

17	○		Web デザイン I	インターネットとWebサイトの基本知識を学ぶとともに、Illustrator・Photoshopの「Webパーツ制作のための使い方」およびWebサイトに適した画像パーツ制作の過程を学ぶ。また、HTMLをコーディングして構造・記述ルールの基本やCSS(スタイルシート)の役割と使い方を理解しながら、Webサイトデータを作り上げる。	1 後期	30	1		○		○								
18	○		撮影基礎	一眼レフカメラの基本操作と撮影の基礎を学び、各自のクリエイティブワークへ活かす。写真をヴィジュアルとする場合の画面構成や人物の配置、表情の重要性を学びより実践的な表現力を習得する。	1 後期	30	1		○		○								
19	○		パッケージデザイン I	市場に出回っているパッケージにはどのような種類(構造・包装材料・印刷方式等)と機能(情報伝達・商品保護・可搬性等)があるのか学習し、パッケージデザインが消費者に対して果たしている役割について理解する。	1 後期	30	1		○		○								
20	○		グラフィック表現テクニック	企業と消費者をコミュニケーションするアートディレクター・グラフィックデザイナーにとって重要視される「独創性」「着眼点」に対し、「表現」というフィルターを通すことで感性を磨くと共に、各自が秘めている可能性を見つけ出す。	2 前期	60	2		○		○								
21	○		インフォメーションデザイン	コトバだけでは伝わりにくい情報を視覚化することで、より分かりやすく伝えるのがインフォメーションデザインである。複雑な情報を整理・分析し、他社に分かりやすく伝えるための表現方法を学ぶ。また、編集やレイアウトの工夫で、より効果的に伝達する方法を総合的に学ぶ。	2 前期	60	2		○		○								
22	○		コミュニケーションデザイン	あらゆるデザイン的前提になるのが「コミュニケーション」であることを踏まえ、1年時の「コンセプトメイキング」の授業をより実践的な形で継承することで、思考>発見>表現>評価の一貫した作業を通じて、人とデザイン、社会とデザインの関わりを学ぶ。	2 前期	60	2		○		○								
23	○		広告デザイン演習 II	課題制作を通じて、広告制作の現場が今必要としている人材を育成していく。広告とは何か?ということをも改めてしっかりと理解し、実際の仕事におけるデザイナー・アートディレクターとして制作プロセスを学ぶ。	2 前期	60	2		○		○								
24	○		DTP演習 III	制作演習を通じてInDesignの基礎操作を学びながら、マージンや文字組に配慮したレイアウト力を強化する。さらに企画力の向上を図りつつ、現場に即した制作のワークフローを学び身につける。	2 前期	60	2		○		○								
25	○		DTP演習 IV	1年次で習得した各種デジタルアプリケーションの応用的使い方、卒業制作等大型作品の入稿用データ制作方法、就職活動に用いる作品ファイルの制作等について学ぶ。オフセット方式を主とした印刷に関する知識を深めるとともに、検定試験受験に対応した学習を通じてスキルの定着を目指す。	2 前期	60	2		○		○								

35	○		後期課題制作Ⅰ・Ⅱ	日常の講義や演習を通して学んだ発想、技法を活かし、後期のまとめおよび進級制作や卒業制作の準備と展開等を踏まえて課題制作を行う。	1・2後期	60	2		○	○	○			
36	○		進級制作	一年間の学習で身に付けた専攻の専門知識と技術を集大成した作品を制作する。	1後期	180	6		○	○				○
37	○		卒業制作	二年間の学習で身に付けた専攻の専門知識と技術を集大成した作品を制作する。	2後期	450	15		○	○				○
合計						37 科目		80 単位 (2,400単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	各学年の教科目を履修・修得し、卒業制作の審査に合格した者は、第2学年の課程の修了が認められ、卒業が認定される。卒業時必要履修授業時数2,400単位時間	1学年の学期区分	2期
履修方法：	必修科目については時間割に準じ、選択科目についてはガイダンス時に配布される資料やシラバスを確認し、担任へ申告後履修する	1学期の授業期間	18週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。